大正５年５月５日木藤精一郎創立

やまゆき会会報

平成 30 年5月号

例　会　報　告

例会委員学習例会・下見山行

3 月 3 日（土） 晴　担当:例会委員会　参加者 6 名

4 月 22 日（日）予定の例会委員学習例会の下見を目的に例会を実施。

8 時 20 分、阪急宝塚駅発有馬温泉行の阪急バスに乗車すると、超満員で 30 名以上のパーティと乗り合わせすることになった。聞くと「労山」所属のパーティで、北アルプス山行に向けたロッククライミングの練習とのことで目的地は同じ蓬莱峡。我々は彼ら（彼女ら？女性が大半）が下りる「座頭谷」の一つ手前の「知るべ岩」で下車。

蓬莱峡にてベースキャプを設置後、学習例会のプログラム内容・担当・時間割を議論、決定。また合わせて当日使用する各種資料の確認を行った。その後、登山の基礎知識的技術である「歩き方（登り、下り）」、「アイゼン歩行」、「ロープワーク」の実習場所をベースキャンプ近くに設定し、模擬実習を実施。

昼食は各自持参の弁当等に加え、うどんを料理。満腹となった後、「渡渉」の実習場所の決定と実習、「読図」ルートの確認を 2 時間程かけて実施し、学習例会当日に備えた下見を終了。

コースタイム

阪急宝塚駅(8:20)＝知るべ岩バス停(8:35)～蓬莱峡(8:50～15:00)～座頭谷バス停(15:15～15:38)＝阪急宝塚駅(15:55)

野坂山地：　赤坂山（823.6m）

Ⓐ班　周回コース　上級Ｄ　　3 月 4 日（日） 晴れ　担当:藤堂尚久　参加者 8 名

青春 18 きっぷを利用し残雪期の赤坂山へ向かうことになり、JRマキノ駅にはⒶ班(赤坂山～寒風周回)、Ⓑ班(赤坂山ピストン)、計 18 名が集まった。バス乗車約 20 分、到着したマキノ高原はスキー場が営業されていた時代もあった多雪地域で、現在は山麓から赤坂山、稜線へとスノーシューハイクを楽しむ人が多く、レンタル施設や案内所もある。高原入口で本日予定説明、ストレッチ等をし装備を整え、Ⓐ班は先に出発、赤坂山登山口から赤坂山自然遊歩道へと入る。　春近しと感じながら雪解けの進んだ道を行くが、30 分後には積雪、一部凍結個所が出てきて数名がアイゼンを装着。テンポよく歩を進め暑くなり衣服調整も早めに行う。西方には白

い稜線が現れ、P483 の標識横を通過、少し急登を経て武奈の木平に到り小休止。東屋は半分埋まっている。そこから細い尾根を進み、左手沢沿いに登り、堰堤右を越え、谷道を離れて尾根を巻き、ブナの樹林帯に出る。やがて現れた送電線の鉄塔下広場で昼食をとる。そのまま進めば滋賀・福井県境尾根の粟柄越に出るが、我々は赤坂山へと直登することにした。緩やかな登り、トレースは薄い、リーダー先頭に道を踏み固めながら、青空に向かい雪原を登りつめていくといった感じ、20 分程で難なく赤坂山頂上に到着した。山頂付近は岩や土が露出、天気穏やかで微風であるが稜線上、さすがにじっとしていると寒い。赤坂ブルーと言いたくなるほどの空の青さであり四方絶景に癒される。北の若狭湾、南の琵琶湖は霞んで見える。東には伊吹山や例会担当をした横山岳や金糞岳が山頂白くそびえている。

さて本日のハイライトとも言うべき赤坂山から寒風に到る県境尾根縦走となった。残雪期のこの時期、ここでワカン、スノーシュー装着の予定であったが、予想外に雪は少なく、道は固められていて歩行踏み抜きはほとんどない、このままツボ足で進むことにした。装着しても良かったが、周回コースを予定時間内に踏破することを優先したのである。一旦粟柄越に下り、快適な縦走路に入る。広大な雪原はどこでも歩き放題、先頭を順次交代しながら雪面に好きにトレースを刻み進む。麓のマキノや琵琶湖を眺めながらの雪上漫歩は爽快な気分であった。トレースはあったものの今日は先行者が 2 組見える程度、時間の制約があるからか周回する人は少ないようである。日本海に近く寒気の影響を受けやすい地域なので晴れることが少ない。冬季にこの稜線を歩くには時間の余裕や気象条件が揃わないと難しいのだが、本日は絶好条件と言える。寒風には 1 時間半で到着。実は大谷山方向へ行き過ぎてしまい、引き返し 10 分のロスをしてしまった。標識が少し頭を出す程度で結構積雪があり、数組の登山者が休憩している。赤坂山より標高が高い地で好展望を楽しんでのち、下山開始する。

ここからは西山林道分岐を経てマキノ高原に下る道。どんどん高度を下げて行き午後で気温も上がると、雪が緩んで重くグズグズになり踏み抜き頻発、3 名はワカンを装着し切りぬけることになった。途中、先行するスノーシューグループ 2 組を抜き、予定コースタイムより 15 分早くのゴールとなった。諸条件に恵まれ無事に全員周回できて良かった。やはり単独で回るよりも仲間と一緒に歩けるというのは楽しいものだと実感できた山行であった。

コースタイム

マキノ高原(9:50)～武奈の木平(10:55～11:00)～鉄塔広場(11:50～12:10)～赤坂山(12:30～12:35)～寒風(14:05～14:20)～西山林道出合(15:15～15:20)～マキノ高原(15:45)

Ⓑ班　赤坂山ピストン　中級Ｄ　　晴れ　担当：北川隆史　参加者 10 名

晴天のもと、温泉施設前から広い草地を緩やかに登って登山口に着いて衣服調節。長い階段道を登って行くと雪道になるが、楽に歩ける。1 時間余りで武奈の木平に着く。半ば雪に埋もれた東屋で休憩、スノーシューなど付ける時間を取って出発。

コースは尾根道から沢沿いとなる。間もなく沢を離れて Ｖ の字を描くように折り返して山腹を登って行くのだが、鋭角に曲がる直前に 2 メートル強の段差を下る個所があり、スノーシューでは危険なので、手前の山腹を登ることにする。この斜面がなかなかたいへんでスリングで補助するなど苦労して越えた。尾根に取り付いて登り始めると昼時になったので昼食とした。

山腹道から尾根上の登りとなり、ようやく鉄塔に到着。赤坂山の頂上に続く稜線がきれいに見えるが、下山後のバス便と列車乗り継ぎを考え頂上まではあきらめて、集合写真を撮り、下山を開始する。コースが山腹道になるとスノーシューをアイゼンに履き替えて下る。午前中に難渋した沢沿いの段差を避けたいので、支尾根など下降する踏み跡がないかと注意しながら下ったが結局見つけられず、再び山腹道から沢沿いに折り返す個所にさしかかった。さっき登った斜面は避け、沢近くまで道なりに下ってから沢沿いに2メートル強の段差を越えるえることにする。先行していた2人組の登山者がこの段差を越えられないで困っていたので、スリングで助けてあげた。続いて我々のメンバーも無事に通過した。

沢道から尾根道になり武奈の木平について一息入れる。バスの時刻までに余裕を持って下山できる目途がついたので焦らずに歩いて登山口に到着した。

コースタイム

赤坂山登山口（10：05)～武奈の木平(11:15～11:35)～鉄塔尾根の途中(12:10～12:30)～鉄塔（13:20～13:30）～武奈の木平(14:45）～マキノ高原(15:50)

<u>大阪平野：　大坂冬の陣の跡を訪ねて</u>　初級Ａ

3 月 4 日(日)　晴れ　担当：和気勝二　参加者 21 名

参加者の確認を終え、まずは鴫野古戦場跡碑に向う。場所は城東小学校の校門内にあり、跡碑は道からも見え風格のある石碑でできていた。石碑を見物した後、八剣神社へ。ここは上杉軍の本陣のあったところで、青い屋根で出来た風格のある神社だ。上杉陣の本陣だったと

いう案内板は数年前に取り外された。この後、新喜多新田会所跡に向う。会所跡碑は大きな黒い壁に囲まれた風格のある大きな家の玄関の前に建てられている。家の表札をみると「楠」という表札がかかっていた。実はこの家はやまゆき会の大先輩の楠さんの家である。(ホームページに石碑がでています。)この後、大阪城公園に到着し、昼食とした。

この日の朝刊に、この冬が寒かったので梅の開花時期が2週間ほど遅れ今が満開で見ごろだと報道されていた通り、梅は満開で綺麗でした。梅林を見学の後、大阪城公園を周遊して森ノ宮駅に向い解散。

井上さんにコースの提供をいただき、疋田さんに下見に2回来ていただき何とかコースを歩くことができ、お二人には感謝しております。

コースタイム

JR 学研都市線鳴野駅(10:10)～鳴野古戦場跡碑(10:20～10:25)～八剣神社～新喜多新田会所跡～大阪冬の陣跡～大阪城公園(11:45～12:15)～大阪城梅林、大阪城公園散策～JR 大阪環状線森ノ宮駅(14:10)

<u>播磨: 薬師峰　(七種薬師 616.1m)</u> 中級 D

3 月 11 日(日)　快晴　担当:西山弘一　参加者 8 名

今回の読図例会は七種三山の一つ薬師峰で実施。快晴に恵まれ絶好の山行日和である。

JR 山陽本線姫路駅に集合後、姫路駅北口から前之庄行神姫バスに乗車し松ノ本北で下車、少し歩いた広場にて読図学習を開始。まずは集合時に配布した地図にて、お題の「登山口までに現在地を特定できる地図記号を 3 つ探す」と「西山が必ず立ち止まる地点を推測する」を皆で議論。その後テキストにて読図の基本と地図とコンパスの使い方を学習。

登山口までの約 40 分は、地図を片手にお題で議論した内容を確認しながら歩行し、また地図で現される情報と目に見える地形を比較して、地図への理解を深める。牛舎に挟まれた香り溢れる？道を過ぎる

と明王寺池の登山口に到着。ここで、これから山行するルートを例会計画書に記述してある情報のみから、各自渡された地図に線を引いて頂くと共にルート上の現在地確認ポイントを探して、読図への理解を深める。

準備体操後、次の確認ポイントまでの先読み＝「東向きの尾根を 120m～130m急登後、地獄鎌尾根に合流」との先読みを実習し、歩行時間を推測後出発。枝や地面の草を掴みながらのいきなりの急登にあえぎ、稜線に出ると地獄鎌尾根を北へ。途中左手の尾根に「ゴリラ岩（ゴリラの横顔に見える）」とその奥には以前読図例会を実施した「明神山」が見える。途中の隠れピークを見つけて、ふた山程過ぎ、ナイフリッジ状のやせ尾根を越えると本日のメインイベントである斜度 45 度、標高差 30m程の鎌尾根に到着。ここで昼食をとり、藤堂さんから差し入れの「パイナップル大福」と「キーウィ大福」を堪能。（藤堂さん　いつもありがとうございます）

昼食後、3 点確保で慎重に板状節理の岩場を登る。グリップやフリクションは良く効くので慎重に登れば問題なし。ここから一気に十字峰を目指し、十字峰手前から東へルートを変え 20 分程で薬師峰へ。今日は眺望も良く、正面の先鋒「七種槍」やその左には「七種山」、その麓に「七種滝」や「七種神社」も良く見える。帰りのバスの時刻も気になるので、早々に十字峰へピストン。十字峰から西尾根へ入り、小ピークを登り下りしながら四等三角点 334.9mで小休止後ゴリラ岩へ。ゴリラ岩の額部分から下を覗くと絶壁がスパッと切れ落ちている。少し戻ってゴリラの左耳あたりの迂回路を急降下し、ほお骨当たりの岩場を鼻に向かって斜め上方向に急斜面を慎重にトラバース。鼻岩で記念写真。その後岩場の下降を続けあごの下に到着し、本日のメインイベント第 2 弾を終了。

南へルートを継続し、隠れピーク（尾根はピークから分岐）から明王寺池に向かう西方向の尾根を下り、牛舎の手前に無事下山。バスの時刻がせまっているので、少し速足でバス停へ。予定のバスに乗り、JR 姫路駅にて解散。皆さんお疲れ様でした。

コースタイム

JR姫路駅北口(9:05)＝松ノ本北バス停/広場(9:45～10:30)～登山口(11:05～11:25)～地獄鎌尾根小ピーク(11:50～11:55)～岸壁登り口・昼食(12:35～13:00)～薬師峰 616.1m(14:05～14:15)～十字峰経由四等三角点 334.9m(15:35～15:40)～ゴリラ岩経由西尾根登山口(16:20)～前之庄バス停(16:50～16:57)＝JR 姫路駅北口(17:45)

<u>伊吹山地：　賤ヶ岳（421.1m）</u>　初級 C

3 月 17 日（土）　晴れ　担当：藤堂節子　参加者 17 名

JR 大阪駅発新快速塩津行き乗り換えなし、2 時間弱で余呉駅に到着、便利な便だった。駅前広場で人数確認後すぐ出発し、余呉湖畔にある観光会館に向かった。本日のコースがわかりやすいパンフレットを貰い、配布後予定説明、手洗いを済ませ、準備体操をした。

江土登山口から入山し、坂道を上る。2 月の余呉湖周辺は雪に埋もれていたので例会予告で簡易アイゼン持参をお願いしたが、この日はつくしや蕗の薹が顔を出し天候にも恵まれ早春の清々しさが感じられた。歩行中、右手の木々の間から余呉湖がいつも見え隠れしている。15 分程で、余呉湖畔の岩崎山登山口からの急登の登山道と合流する。賤ヶ岳方面の小さい案内板を見落とさず左折し、狭い階段を上がると谷側に木製のガードレールが取り付けられた落葉道に出た。程なく大谷山に到着し、この地で戦死した中川清秀の墓に立ち寄った。賤ヶ岳は古戦場として有名な山であちこちに顕彰碑や遺跡があり、地元の方が歴史を大切にしておられることがうかがえる。5 分程で首洗いの池の標識があった。木々の中に大きさ1m程のきれいな湧き水が溜まった池が見られた。次に猿ヶ馬場には案内板のような石碑が置かれ羽柴秀吉の陣跡と書かれていた。左側の分岐は木之本へ向かう道だ。昨年の 10 月の台風の影響が酷く、杉の大木があちこちで根こそぎ倒されているのを迂回しながら歩く。山頂手前でやや急登があった後、頂上広場に着いた。小屋の陰にわずかに残雪も見られたがゆっくり昼食時間をとった。山頂からは北に余呉湖の全貌が、南には琵琶湖の北端が広がり、竹生島が豆粒のようにポツンと浮かんでいる。目を上にやると比良山系、伊吹山系の山々が雪を残して広がっている。山により雪の白さに濃淡があるのが美しい。

昼食後は余呉湖をめざして下山する。やや急下りを抜けると飯浦の切通しで道が左右に分かれる。右にとって国民宿舎余呉湖荘跡の横に出ると湖畔道路だ。あじさい園でゆっくりトイレ休憩後、できるだけ湖沿いの道を選び余呉湖を時計回りに半周する。湖の西側の川並地区は 40～50 年前から民宿村としてにぎわった集落である。湖西線の線路の手前がワカサギ釣りの拠点のビジターセンターだ。ここから駅まで線路近くの道を 20 分の距離なので解散することにした。予定より 40 分早い到着だった。

コースタイム

JR余呉駅(9:35)～余呉湖観光館(9:40～9:55)～江土登山口(10:00)～大岩山・中川清秀の墓(10:30～10:40)～猿ヶ馬場（10:55）～木之本・分岐(11:15～11:20)～賤ヶ岳(11:40～12:20)～飯浦の切通し(12:40)～余呉湖畔（13:00）～あじさい園(13:10～13:20)～ビジターセンター(13:55)

丹波高原（東部）：　阿武山・茨木自然歩道と摂津峡　初級 B

3 月 18 日(日)　晴　担当:中村彰利　参加者 33 名

阪急バス安威バス停スグの交差点横の広場でミーティングと準備体操を行った後、武士(もののふ)自然歩道登山口の標識からジグザグの登山道をのぼる。阿武山稲荷の赤い大鳥居をくぐり、小さい祠に参拝する。登りもややゆるやかになり、明るい雑木林を楽しむ。貴人の墓の標識からフェンス沿いに右へ進み阿武山古墳に立寄る。古墳は昭和9年に京大地震観測所工事で発見されたもので、藤原鎌足の墓ではないかと言われている。元の道に戻り先へ進む。

展望地がつくられており、大阪市内から北摂方面の風景が楽しめた。程なく阿武山山頂(280.9m)に着く。よく整備されているが展望は今ひとつ、記念写真をとり北へ下る。少しぬかるみもあったがすぐ車道に出る。広大な建設資材置場用地の横を通り、変電所の見える広場で昼食をとる。

午後は変電所を左へ、バス通りを北へ歩く。多くの車両にも出合うが、すぐ山道へ入ることが出来た。落葉の深い水平道だったが、十字路で武士自然歩道とも分かれ、萩谷総合公園を目指す。公園は多くの家族づれでにぎわっていた。トイレ休憩の後、野球場、サッカー場を過ぎ、一番奥から初めて萩谷連絡路を利用して摂津峡に下ることとした。静かな歩き易い山道だった。摂津峡では若干東海自然歩道からそれるが、行者岩を通り白滝へ下った。今日は水量も多くきれいだった。芥川の丁字路で小休止。ここから東へ摂津峡の景勝地を楽しみながら上ノロバス亭まで歩く。

コースタイム

阪急バス安威バス停(10:05)～貴人の墓(11:00)～阿武山(11:20～11:25)～北大阪変電所前(11:55～12:30)～萩谷総合公園(13:00～13:20)～摂津峡(13:50～14:10)～上ノロパス亭(14:40)～JR 高槻駅(15:00)解散

北摂　：　五月山　初級 B（予告）　→　入門 A（実施）

3月21日(水・祝)　雨　担当:安威喜雅　参加者 5 名

天気予報どおり朝からしっかりした雨となる。小雨決行とはしていたものの、通常の例会なら雨天中止としたいところであるが、今日は午後から総会があるので、せっかく行くのだからと、ひょっとして来る人があるかもしれないと思い、集合場所の阪急池田駅へ行くことにした。

結果こんな雨でも歩くと言う人が5人集まった。しかし足元が悪いうえ、13 時からの総会に間に合わさなければならないこともあり、五月山へ上がるのは止め桜井まで平地を歩くことにした。

全員雨具を着け完全武装で駅をスタートし商店街を抜け、酒蔵呉春の前を通り五月山動物園へ。ここは市の動物園で無料であるが、山羊・羊・鶏など、少し変わったもので、ワラビー・エミューなどがいる。ここの目玉はウォンバットであるが夜行性で昼間は見られない。

次に市の緑化センターへ行ったが水曜日は定休日で入れなかった。ここから少し下がり池田城跡へ、いろんな花が咲いており、よく手入れされている。天守閣に上ると池田の町並みが一望出来る。天気が良ければ良いデイトスポットであろう。池田城を出て一路通称中央道を東に向かい水月公園へ、梅はほぼ終わりだがだが、まだ種類によっては残っていた。ここは梅と菖蒲が有名な公園である。ここを最後に桜井へ向かったが途中で雨が止んできたので、急遽食事をコミセン手前の半町北公園で済ますことにした。皆、雨の中でも食べ易いおにぎりだったので早く済ませることが出来た。

食事を済ませゴールの総会会場まで 5 分、無事 12 時過ぎに着くことが出来た。山には上がれなかったが、ちょうど良い時間つぶしの町歩きとなった、雨の中お疲れ様でした。

コースタイム

阪急電鉄池田駅(9:10)～五月山動物園(9:30～9:50)～緑化センター(10:00)～池田城跡(10:05～10:20)～水月公園(10:55～11:10)～半町北公園・昼食(11:40～12:05)～箕面市立コミュニティセンター南小会館「桜のまちの家」(12:10)

平成29年度　やまゆき会総会　　(於　箕面市立コミュニティセンター南小会館)

3 月 21 日(水・祝)　小雨　参加者 49 名

配布資料

1. 平成 29 年度総会式次第
2. 平成 29 年度やまゆき会活動報告
3. 平成 29 年度例会参加回数一覧表(表1)
4. 平成 29 年度例会の地域区分による実績(表2)
   平成 29 年度例会担当者とその実績数(表 3)
5. 平成 29 年度やまゆき会収支決算報告、会計監査報告

6. やまゆき会平成 29 年度例会参加回数　表彰
7. 平成 30 年度「やまゆき会」組織図
8. 平成 30 年度やまゆき会活動計画
9. 平成 30 年度やまゆき会予算比較表
10. やまゆき会規約改正（案）

あいにくの雨にもかかわらず大勢の参加のもとに平成 29 年度総会が開かれた。

懇親会

総会終了後、懇親会の準備に入り、14 時 30 分から懇親会。
8 つのテーブルに女性陣の差し入れの料理詰合せ、つまみ盛合わせ、和菓子、ケーキ、ビールなどが並び、中村彰利相談役による乾杯の音頭で懇親会が始まった。会員提供のお酒もあり、和やかな歓談と交流は続き、特設のコーヒー・ジュース卓も好評であった。
懇親会終了後 15 時 50 分から全員で後片付・清掃。
最後に中川輝夫さんの指揮により「雪山讃歌」を歌い、参加者の記念撮影を行った。

金剛・和泉山脈：　水越峠～紀見峠駅　上級 C

3 月 25 日（日）　晴れ　担当：吉井利一　参加者 8 名

今回のテーマは脚力強化、適切な水分とカロリー摂取であった。

水越峠バス停に到着し、コース説明、注意事項、ストレッチを行い今日の例会での目標について、全員に周知した。食事、休憩を含め昭文社のコースタイム以内で踏破する事とした。各ポイント通過時点でのタイムにこだわって歩くために、ポイント通過時点でのコースタイム、スタートからの距離、標高を記載したメモを渡した。

一の鳥居までの急登と、全行程距離の約半分の千早峠以降のスタミナの持続がポイントであったが、ペースにややバラつきがあったものの、目標の 7 時間

を切るタイムでゴールできた。紀見峠駅近くでは、満開の桜が咲き乱れ、タイムの事も忘れて暫しのお花見を楽しんだ。

反省点としては、全員同じペースで歩くことをイメージしていたが、かなわなかった。

今後も会員からの一定の支持があると感じることが出来たら、このような長距離縦走を企画します。お疲れ様でした。

コースタイム

水越峠(9:20)～太尾塞跡(10:30～10:35)～一の鳥居(11:20)～ちはや園地・昼食(11:30～11:50)～千早峠(13:10～13:15)～行者杉(13:50)～山の神(15:20～15:25)～南海高野線紀見峠駅(16;00)

布引山地：　錫杖ヶ岳（676m） 中級C

3月28日(水)　晴れ　担当:石田幸弘　参加者3名

・昨年の8月8日(火)に計画した錫杖ヶ岳は、台風5号でJR関西本線が止まり流会となった。今回再度計画した。

錫杖ヶ岳は東からの尾根道、北西からの尾根道などが昔はあったが、今は廃道になりもっぱら南側からの2本の道と西側からの往復道のみになっている。西側からの道は良く整備されて休憩ベンチや岩場の鎖も各所に増設されていた。

・JR関西本線加太駅前には「コブシの花」が満開、サクラは3分咲きくらいか、はるか南の尾根には3つのピークを持つ錫杖ヶ岳が霞んでいた。参加の3人は足取りも軽く、気温も高く初夏のような山行になった。

登山口には数台の車が止まっていた。最初は沢沿いの道を進み、柚之木峠から東にやせ尾根歩きだ。錫杖ヶ岳直下は高度 50mほどの露岩の道、鎖やロープが設置されて小学生も上がって来る。

・独立峰の頂上は大展望台、南の眼下には錫杖湖が広がっている。東は亀山や関の町、北の眼下には加太の集落が点在する。その向こうは鈴鹿の山並みがずっと続いている。西は伊賀、甲賀の里。昼食を取っていたら下から大勢の人が上がって来た。浜松からバスを仕立ててやってきた 30 人組。狭い頂上は大人数の座るところも無く、東側の下には東屋もあるが頂上で景色を見ながら食事をとるようだ。先客の数人はそそくさと降り、我々も急いでかたづけた。

頂上から北に降りる道は踏み跡があるのを確認しただけで、来た道を引き返し、気温も上がって尾根に吹き上げる風は気持ち良かった。北に下る車道にはたまに車が走って来る。サクラやツツジ、タンポポ、スミレ、などの道端に咲いた花を眺め、だべりながら歩く。

コースタイム

JR 関西本線加太駅(9:30)～高速下(9:42)～登山口(10:08～10:10)～柚之木峠 390m (10:40～10:45)～錫杖ヶ岳(11:35～12:05)～柚之木峠(12:45)～登山口(13:05)～JR 関西本線加太駅・解散(13:45～14:28)

吉備高原：臥牛山(小松山)　備中松山城(420m)と高梁　歴史と文化の散策

初級 B　　3 月 31 日（日）晴　担当:浜崎邦男　参加者 17 名

遠路はるばる 5 時間かけて JR 備中高梁駅に集合して頂きありがとうございます。

道中で時間が有ったので、今日の行程を説明。予約のタクシーで小松山 8 合目のふいご峠に到着、これより階段道を約 25 分で備中松山城の二の丸に到着。

昼食を済ませて、約 1 時間、自由散策の時間をとりました。備中松山城内天守閣等の散策組と、小松山(備中松山城、標高 420m)～大松山(大松山城跡、標高約 470m)～臥牛山「天神丸山(天神丸跡)より離れた小高い位置に臥牛山最高峰標高約 487m(天神の丸山の山頂)」～松山城の登山組との 2 コースに分かれて各々楽しみました。

そののち全員で松山城登山口まで中国自然歩道(荒れた道)を歩き、途中野猿の生息地を無事通過。休憩場所では 3 月なのに早々に熊蜂に遭遇したが、皆無事に下山できました。備中高梁歴史散策道の入り口(高梁高校前)で、各自自由に散策(武家屋敷、頼久寺・庭園、郷土資料館、商家資料館、歴史資料館、等)していただく為にここで解散としました。

尚、各自三々五々JR 備中高梁駅発 14:27～16:53 間に乗車され、無事皆さん帰阪されました。

コースタイム

JR 備中高梁駅(11:09)=ふいご峠(11:35)～備中松山城、二の丸(12:00～13:20)～松山城登山(14:00)～備中高梁歴史散策道の入り口(高梁高校前)(14:10)